



以前から「特許電子図書館」を使用して知財情報の検索を行っていました。「特許電子図書館」は数年前「J-PlatPat」に変わり、その後も時々、機能改善がされているようです。平成31年にも機能改善の予定があると聞いたのですが、特許に関する改善予定の内容を教えてください。

(徳島県 C. T)



1. はじめに

特許情報プラットフォーム(以下、J-PlatPat)は、独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)が提供しているネット上の検索サービスで、知財情報の検索を誰でも無料で行うことができます。現在のJ-PlatPatは、「特許電子図書館(IPDL)」の後継サービスとして、平成27年にスタートしました。

スタート後も順次機能の改善が図られています。以下、今後リリース予定の機能改善のうち、特許に関係するものをご紹介します。

2. タイムラグの短縮化

審査または審判の経過情報(例えば拒絶理由通知がいつ発せられたかの情報)に関し、現在では、その事実が生じてからJ-PlatPatで検索可能となるまでに約3週間かかっていました。機能改善後は、翌日に検索可能となります。

3. 審判書類の照会

現在、審判段階における書類で照会可能なものは、特許、実用新案の審決、決定等の最終的な書類に限られています。機能改善後は、拒絶理由通知書、意見書、手続補正書、面接記録、応対

記録等、多くの書類の内容を照会できるようになります。なお、これらの書類は、平成31年1月以降のものが照会対象となる予定です。

4. 中国、韓国公報の検索

現在、中国、韓国の特許、実用新案公報の検索は、特許庁の「中韓文献翻訳・検索システム」を用いる必要があります。機能改善に伴い、このシステムがJ-PlatPatに移行され、日本語による中国、韓国公報の検索が可能になります。

5. 機械翻訳の品質向上

現在、J-PlatPatにおいて提供される日本の公報情報および審査書類情報の英語翻訳は、ルールベースの機械翻訳が用いられています。機能改善では機械翻訳エンジンが刷新されるため、ニューラル機械翻訳等によって英語翻訳の品質向上が期待できます。

なお、今後は、中国語、韓国語文献の日本語翻訳についても、英語翻訳と同様にニューラル機械翻訳等へ切り替えていく予定とのことです。

6. 他法域との横断的な検索

キーワードや文献番号による検索に

ついて、特許、実用新案、意匠、商標の法域を超えた横断的な検索が可能になります。

7. 検索結果の加工性能向上

J-PlatPatの検索結果の件数が上限(現在1000件)を超えた場合に、自動で絞り込みを行うようになります。

具体的には、日付で自動的に絞り込みを行い、日付の新しい検索結果から上限件数までをリストで表示します。また、検索結果のリストにおいて、検索項目ごとのソートが可能となり、検索結果における図面の拡大、回転等の操作もできるようになります。

8. 検索式の再利用など

新しい仕様であるHTML5の機能を利用することで、検索式の再利用が可能になります。また、検索結果(単件分)に直接アクセスできる固定アドレスの提供が開始されます。

9. 機能改善のリリース予定

以上の機能改善は、5月にリリース予定です。詳細は、特許庁ウェブサイトでご確認ください。